

情報連絡員報告総括表(令和5年11月期)

富山県中小企業団体中央会

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油・味噌製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	パン製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	↘	・原材料価格の値上がりが続いている。 ・販売価格への転嫁のタイミングが難しい。 ・企業形態を見直す時期が来ているように思われる。
	豆腐製造業	↘	→	↗	→	↘	↘	→	→	→	・円安の影響で原材料価格の高騰が続いており、厳しい状況に変わりはない。
繊維工業	ニット製造業	↗	↗	↗	→	→	→	→	→	→	・産業資材関連は堅調に推移しているが、衣料分野は低調である。 ・価格転嫁は順調に進んでいる。 ・人員確保が課題である。 ・景況はやや良くない状況である。
	絹人織織物製造業	→	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・化合織織物関係は、売上については前年同月と変わらないが、小ロットの発注が多い。加工場の廃業や加工賃単価の上昇が収益を圧迫している。 ・絹織物関係は、例年より荷動きが鈍く、売上が増えていない。
	綿・スフ織物業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・前年同月と比べて変化はないものの、コロナ禍後の回復傾向に若干の陰りが見られる。
木材・木製品	一般製材業	→	→	→	→	↘	→	→	→	↘	・上半期の新設住宅着工戸数について、前年同期比で富山県は6.9%減となっている。利用関係別戸数では、個人住宅である持家が前年同期比12.1%減となり、新型コロナウイルス感染症の蔓延していた令和2年度上半期を下回っている。 ・円安による資材調達の高騰により、建築需要の減退が起きている。 ・県産材、ロシア材とも入荷は順調だが、需要が回復せず客足の悪い状態が続いているため、木材関連事業者は引き続き厳しい経営状況にある。加えて、働き手の不足や運賃、燃料代、人件費などのコストアップなども、厳しい経営状況が続く要因となっている。
	その他の木製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	・特になし。



業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備稼働率	雇用人員	業界の景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
鉄鋼・金属	銑鉄鑄物業	↘	→	↗	→	↘	→	↘	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型の建設機械及び工作機械関連の受注が減少している。</li> <li>・今後の景況感も悪化しており、当分は厳しい状況が続くと考えられる。</li> </ul>
	銅・同合金鑄物製造業	→	→	↗	→	→	→	→	→	→	・特になし。
	アルミニウム製品製造業	↘	→	↗	→	↘	→	→	→	→	・特になし。
	建築用金属製品製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄工業製造部門は、前年同月に比べて経営実態が持ち直し傾向にある。</li> <li>・材料費の高騰、溶接作業に伴う電気代の高騰、製品運搬費の高騰、物価高による賃上げ、価格転嫁等の課題が山積している状況ではあるが、比較的、経営実態が安定している。</li> <li>・インボイス制度の実施により、各社、経理事務が輻輳している。</li> </ul>
	めっき加工業	→	→	↗	→	↘	→	→	↘	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年同月比で販売単価は上昇しているが販売数量は減少しており、売上高は前年とほぼ同じになっている。</li> <li>・電気代高騰の影響が出てきており、収益が若干悪化している。</li> </ul>
一般機器	金属工作機械製造業	↘	→	→	↘	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注状況は前年同月比81.53%となり、工作機械部門では、受注、売上は前年同月比で増加しているが、その他全部門で落ち込みが大きく、11月は受注、売上ともに減少している。</li> <li>・当面の間、減少悪化が続き、厳しい業況が続く見込みである。</li> </ul>
	金属加工機械製造業	↘	→	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	・プラスチック製品加工業以外は低迷している。
	非金属用金型製造業	→	→	↘	→	↘	→	→	→	↘	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年末に向けての駆け込み需要からか、停滞から過剰感さえも感じられる動向の変貌ぶりで、市場の動きが激しい。しかし、その盛り上がりは限定的であり収益性も乏しく、業界の判断としては、厳しい事業環境に変わりはない。資金繰りに支障が生じないか危惧される。</li> </ul>
電気機器	電子部品・デバイス・電子回路製造業	↘	→	→	→	↘	→	↘	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上について、前年同月比は減少しており、民生機器向け、工作機械・産業機械向けは低調、自動車向けは横ばいとなっている。</li> <li>・中国向けのビジネスが悪化しているとの情報がある。</li> <li>・顧客の新規開発の動きは活発化してきていると感じるが、新製品の立上は低調であるため、新製品の受注が低迷している。</li> <li>・エネルギーや原材料費の高騰が続いているため収益悪化が続いている。</li> </ul>
輸送機器	自動車部分品・附属品製造業	↗	→	↗	→	↗	→	↗	→	→	・特になし。
その他の製造業	漆器製造業	→	→	→	→	→	→	→	→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客や記念品の販売に動きが見られる。</li> <li>・イベントでの体験会も盛況で、これからの動向に期待している。</li> </ul>

業種	項目	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備 操業度	雇用 人員	業界の 景況	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸 売 業	セメント卸売業	↓	→	↑	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下期に入っても袋セメント取扱数量の減少は止まらない。県内工事量の少なさもあるが、昨年値上げしたことにより、私製袋(ホームセンターなどで販売されている廉価品)との値差が最たる形となり、組合の顧客である建材店が私製袋にシフトしていることが大きな原因である。</li> <li>・セメントメーカーは私製袋業者に対してセメントの値上げは鈍いため、更に両者の乖離幅が大きくなり、今後も組合扱い数量が減少していく見込みである。</li> </ul>
	非鉄金属製品卸売業	↓	↓	↑	↓	↓	↓		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節商材である干支商品などの金属鋳物製品について、受注が例年より遅く、納期が短いため納品に間に合わず、キャンセルになるなどチャンスロスが起きている。コロナ禍明けで行事や贈答需要が回復し、市場が急激に動いたためと思われ、対策を考えたい。</li> </ul>
小 売 業	鮮魚小売業	↓	→	↓	→	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上が伸びず、全体としては依然として景気が悪く、悪化傾向である。</li> </ul>
	食肉小売業	→	→	↑	→	↓	↓		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー価格の高騰や物価高、円安による輸入品の高値が続く中、まだまだ価格転嫁しきれない店舗が多くみられる。</li> <li>・売上が微増しても利益率が悪いいため、収益性が悪化している。</li> <li>・年末に向けて人手不足が深刻である。</li> </ul>
	野菜・果実小売業	↓	→	↑	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山卸売市場全体の状況は、入荷数量の減少(前年同月比85%)で単価高(同106%)となり、売上は減少(同91%)となっている。</li> <li>・青果組合全体の売上高は、前年同月比93%となっている。</li> </ul>
	家庭用電気機器小売業	↑	↓	→	→	↓	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコキュート等への買い替えが増え、売上に貢献している。</li> </ul>
	自動車小売業	↓	↓	→	↓	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	ガソリンステーション	↓	→	↑	↓	↓	↓		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カーボンニュートラルの進展に伴うガソリン等の需要減に加えて、大手流通業者等による廉売激化、人材不足やドライバーの時間外規制などSSの経営環境は厳しさを増している。</li> <li>・県外客の利用が若干増えたエリアもあるが、物価高による個人消費の抑制から需要の回復感は弱く、ガソリン販売量は、先月に続き前年を割り込む状況が続く見込みである。</li> <li>・ガソリン販売価格については、燃料油価格激変緩和事業の新制度の影響から、徐々に値上げに転じており、前年同月と比較すると約8円以上高い状況である。</li> </ul>
	農機具小売業	↑	↓	↑	→	→	→		↓	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>
	ショッピングセンター	→	→	→	→	→	→		→	→	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月はポイント交換率を通常よりお得にしたポイント交換会を開催し、前年同月比で売上は104.7%、客数は103.6%となっている。</li> </ul>
	ショッピングセンター	→	→	↑	↓	↓	→		→	↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>

業種	項目	売上	在庫	販売	取引	収益	資金	設備	雇用	業界	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
		高	量	価	条	状	繰				
商店街	商店街	→	→	↗	→	→	→		→	→	・商店街アンケートへの入込客は、過去3年程ほぼ同じペースである。 ・月末の寒さが冬物衣料や飲食への好影響に繋がることを期待している。
	商店街	↘	↗	→	→	→	→		↘	↘	・物販関係の売上に落ち込みが見られるが、飲食関係は増加している。
サービス業	クリーニング業	↗			→	→	↗	→	→	↗	・全般的に業況の改善(好転)が見られ、特に企業からのユニフォーム等の需要が増加しているが、Yシャツなど、個人のクリーニング依頼の調子は良くない。
	飲食業	↗			↗	→	↗	→	→	↗	・売上が前年同月比で8%増加している。
	建築設計業	→			→	→	→	→	→	↘	・特になし。
	自動車整備業	→			→	→	→	→	→	→	・11月の自動車新車新規登録・届出台数は、前年同月比で15ヵ月連続で増加しているが、コロナ禍前の状況には戻っていない。材料や部品の供給不足による生産調整の影響は着実に縮小しているものの、現状の受注残を大きく解消するだけの生産体制の構築は依然として厳しい状態である。 ・受注残の解消後は、ウクライナ情勢、為替市場、物価高騰などの状況によっては、自動車の車両価格が更に値上がりすることとなり、購買意欲が薄れ、新車販売台数の減少となることが予想される。 ・自動車整備事業者においては、自動車部品、油脂類、機械工具類等全てのものが価格上昇しており、自社努力では対応しきれず苦慮している。 ・また、先進安全技術に係る特定整備制度の創設、自動車検査証の電子化、OBDを活用した自動車検査制度など、多くの制度改正に対応することを求められ、更に、新技術への対応、生産性向上、健全な経営の徹底、少子高齢化社会における自動車整備士の人材不足等の課題も抱えており、対応できない事業者は扱える車種が加速度的に減少していく状況である。
建設業	鉄骨・鉄筋工事	→			↘	→	↘	→	→	↘	・地元中小物件の減少により、地場ゼネコンの過当競争も起きている。鉄骨加工業者は、商社・特約店物件の受注や大手鉄骨加工業者への加工協力などで、ある程度の工場稼働率を保っている。 ・今後の需要に対して不透明感はあるものの、鉄骨単価は下がっていない。しかし、人件費、輸送費、電気料金など諸コストの上昇が続いており、実態は値下がりしている状態であり、値上げを目標としていかなければならない。
	一般土木建築工事	→			→	→	→	→	→	→	・特になし。
	管工事業	→			→	→	→	→	→	↘	・景況に変化はない。 ・会員は、道路消雪点検業務で多忙な状況である。 ・資材・燃料費・労務単価等が上昇しているが、新年度予算には上積みされないことから、発注件数は減るものと危惧している。
	電気工事業	↗			↗	→	→	→	→	↗	・企業の設備投資は増加している。 ・住宅着工件数は下降傾向にある。 ・一部資材(電線類)が供給不足により、12月以降、工事が停滞する恐れがある。
運輸業	道路貨物運送	→			→	→	→	→	→	→	・軽油価格について、前年同月比+2円/ℓで推移し、この先も高値安定で推移していく見込みである。
	道路貨物運送	→			→	→	→	→	→	→	・燃料価格について、前年同月比+3.3円/ℓとなっている。 ・荷動きは、前年同月比96.6%と前年割れとなっている。 ・入り込みの車が相変わらず少ない。